

## 美術作品の様式表現・制作技術・素材に関する複合的研究と公開(シ04)

**目 的** 絵画や彫刻、工芸といった美術作品は、その表現のあり方、制作に用いられた技術、そして利用された素材などが複合し一体となって成立したものである。本プロジェクトでは、こうしたそれぞれの構成要素がどのような実態を持ち、またどのように関わりあっているのか、関連する諸分野を広く渉猟しつつ多視点的に分析し、その関係の解明を目指すものである。こうした研究の実施により、美術「作品」に対するより深い理解の醸成が期待される。

- 成 果**
1. 漆器類などに関わる調査研究
    - ・ 覚書を結んでいる南蛮文化館所蔵品中の修理対象品を2017(平成29)年4月19日に奈良国立博物館に搬入の上、関係者と研究協議を行った。
    - ・ 2017(平成29)5月3日、根津美術館にて同館所蔵の螺鈿漆器類3点の調査を実施した。
    - ・ 2017(平成29)年9月19、20日、甲賀市藤栄神社所蔵十字形洋剣について、アメリカ、メトロポリタン美術館武器武具部門長のピエール・テルジャニアン博士による実見調査を行った。
    - ・ 2017(平成29)年9月21日に京都市内の銚金具工房での聞き取り調査、茨木市内の隠れキリシタン村において伝世漆器の調査を実施した。
    - ・ 2018(平成30)年1月12、13日、大和文華館・大阪城天守閣及び南蛮文化館にて各館が所蔵する南蛮漆器ほかの調査を実施した。
    - ・ 2018(平成30)年3月1日、上記修復中の南蛮漆器及び南蛮文化館所蔵南蛮漆器について、奈良国立博物館にてCTスキャン調査を実施し、非破壊法による樹種同定・また年輪年代法への応用可能性について検討・研究協議を行った。また翌2日に南蛮文化館にて南蛮漆器調査を実施した。
    - ・ 旧所員故柳澤孝氏寄贈写真類の整理作業及びそのデータベース化作業を行い今年度末までに約3,200件を終了した。
  2. 研究成果公開
    - ・ 2017(平成29)年9月2日に韓国国立中央博物館で開催された第9回国際学術講演会「日本が愛した朝鮮美術」において、「アジアとの関係から考える朝鮮半島螺鈿史の検討課題」と題した発表を行った。
    - ・ 2017(平成29)年9月22日開催の第7回文化財情報資料部研究会において、ピエール・テルジャニアン博士により「メトロポリタン美術館が所蔵するヨーロッパの武器武具と甲賀市水口に伝わるレイピアの検討」と題した発表を、2017(平成29)年11月21日開催の第9回文化財情報資料部研究会において、高田知仁氏による「タイにおける螺鈿工芸の変遷とその意味」という発表を行った。

**報 告**・小林公治「アジアとの関係から考える朝鮮半島螺鈿史の検討課題」『第9回国際学術講演会 日本が愛した朝鮮美術資料集』 pp.31-64 17.9

**発 表**・小林公治「アジアとの関係から考える朝鮮半島螺鈿史の検討課題」Lee&Won財団主催 第9回国際学術講演会「日本が愛した朝鮮美術」17.9.2

・ピエール・テルジャニアン「メトロポリタン美術館が所蔵するヨーロッパの武器武具と甲賀市水口に伝わるレイピアの検討」第7回文化財情報資料部研究会 17.9.22

・高田知仁「タイにおける螺鈿工芸の変遷とその意味」第9回文化財情報資料部研究会 17.11.21

**刊行物**・『南蛮漆器の多源性を探る予稿集 増補版』pdfファイルの発刊とインターネット公開 17.6

**研究組織** ○小林公治、津田徹英、小林達朗、二神葉子、塩谷純、江村知子、小野真由美、安永拓世、橘川英規、小山田智寛、田所泰、(以上、文化財情報資料部)、早川泰弘(保存科学研究センター)、中野照男(客員研究員)